



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 加藤 忍

令和7年度 9月号
2025. 9. 12

◎ R7 全国学習状況調査の結果から（追加）※詳細は[学校HP（学校のひろば）](#)をご覧ください

『質問紙調査』からみえる、双葉中の子どもたちの特長と課題

学校HP(学校のひろば)に掲載してある項目以外について、私がポイントと感じたことをいくつか紹介します。全国の数値を比較して、継続したいこと、伸ばしたいと思った点です。



【よい傾向として考えられること（全国比より、やや高かった項目）】

「自分には、よいところがある」 …自己肯定感はとても大切で、生徒には自分に自信をもってほしくて。
「困りごとや不安あるときに大人に相談できる」…悩みは誰もが抱えており、相談できる人が近くにいてほしくて。
「話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づく」 …今の時代コミュニケーション力は必要で。
「国語や数学、理科の授業で学習したことは将来社会に出たとき役に立つ」 …勉強の大切さを自覚していました。

【もっと伸ばしたいところ（全国比より、同程度またはやや低かった項目）】

「将来の夢や目標がある」 …全国と同程度なのですが、この力を学校でも育てたくて、生きる力を与えたくて。
「学校に行くのは楽しい」 …高評価の生徒もいれば、その逆もありました。私たちは一人一人に目を向けなければと。
「友人関係に満足している」…中学生は親より友人優先。自分をわかってくれる人が身近にいれば心は落ち着くと。
「1日あたりの読書時間」 …読書は好きと多く回答しているのですが、時間とマッチしていません。忙しいのかな？

◎甲斐警察署管内交通安全弁論「当たり前を習慣化」（優秀賞）

双葉中学校 代表

「日本一の下駄箱にする」これは、私の学校の伝統です。これを受け継ぐために、私は担当として、日々呼びかけ、習慣にしようとしてつめています。しかし、伝わった実感がない。無駄なのではないか。いつの間にか「単なる義務」へと変わってしまっていました。きっと「諦め」という言葉が私の中に住み着いていたのでしょう。

そして、習慣なんてどうせ身につかない。どうせ無駄だ。そんな考えが、事故の入り口だとは知らずに。

突然耳に飛び込むクラクション。顔を上げると目の前に車。無意識に歩きスマホをしていた私は、目の前の車に気づいていませんでした。もし、あのとき私が止まっていなければ、ルールを守っていたはずのドライバーが加害者となり、私が大怪我を負い、被害者になってしまったのです。歩きスマホは、交通法規として、禁止されてはいませんが、多くの自治体で歩きスマホを防止する条例が定められています。それは他の歩行者、自動車の相手に怪我をさせてしまう可能性があるからです。そして場合によっては過失傷害罪にあたります。歩きスマホはやめようという警察の呼びかけを、無意識のうちに理解し、やってはいけなく、と心のどこかでは分かっていました。けれど、私達若者は、歩きスマホを、実際の生活の中で習慣にしているのではないのでしょうか。

毎日のように「交通事故」のニュースを耳にします。しかし、私達は幼い頃から交通ルールを学んできたはず。なぜ「交通事故」はなくなるのでしょうか。なくすために、私達には何ができるのでしょうか。一人ひとりが、安全な社会で生きていけるように。私は伝えたいことがあります。

誰かが危険な行為をしていたら、ためらわず注意し、指摘しましょう。自分では気づけないことでも、他者の目線で、救える命はあるのです。あなたは、友達が歩きスマホをしていたら、注意できますか。誰かに何かの意見を言うことは「嫌われるのが怖い」と目を背けてしまいがちですが、注意が、命を守るための大切なコミュニケーションになるのです。そういった一人ひとりの、ルールを守る習慣、他者への指摘、呼びかけが、社会全体の共通認識として深く根付かせ、安全な道へと導いていけるのではないのでしょうか。「交通事故」に対して、決して人任せにはしてはいけません。自らの行動が、望ましい未来に繋がるのです。

私は、伝統を守るための呼びかけを、半ば諦めてしまっていました。しかし、習慣にするために、お互いに声をかけることが大切、ということを再認識した今は、学校の伝統を守るための呼びかけに対し、もう一度取り組みたい。そんな気持ちが芽生えたのです。そして、交通ルールやマナーを守るための呼びかけが、当たり前を習慣にできると信じて、諦めることなく続けていきたい。その習慣が、あなたの命を守るはずだから。



◎甲斐警察署管内防犯弁論 「一段下がって」(努力賞)

双葉中学校 代表

衝撃を受けました。同年代の子が自殺したという報道を聞いて。自殺の原因はいじめでした。その子はいじめにより精神的に追い詰められ、不登校を経て自ら死を選んだというのです。

2024年の警察庁・厚生労働省のデータによれば、年間で529人もの小中高生が自殺しています。そのうち、いじめが原因とされた件数は3%程度。少ないように思いませんか？ですが、いじめがなければこの3%はなかったのです。この3%は絶対に許されない3%なのです。

過去の話ですが、学校生活でもいじめは起きます。あるとき、ある学年の生徒がいじめの一員になっていたことがあります。ふだんは明るく楽しい生徒です。私は驚きとともに悲しさを感じました。その後そのいじめは、周囲の方と話し合いを設け、先生に相談することになったと聞きました。そしていじめは止まりました。いじめ行為は、侮辱や名誉棄損もあり犯罪です。いつもと変わらない日常の中で、ふとしたきっかけで安易に人を傷つけてしまうことがあるなんて、なんと恐ろしいことでしょう。

人はなぜ人をいじめるのでしょうか。嘲るのが楽しいから？ 蔑むことで自分が優位に立ちたいから？ 周りがやっているから仲間意識で？ いずれも相手のことを思いやることはなく、自分本位な考えが基であるように思えてなりません。結局は「自分のことしか考えていない」のです。

私はいじめをなくしたいです。安心安全を損なうもの、犯罪につながることを、すべてをなくしたいです。そのためには世の中を変えなければなりません。世の中を変えるために、私は「想像力を働かせること」が大切だと思います。私自身もいつ、加害者にも被害者にもなるかわかりません。私は、私が駄目なことをしていたら注意してほしいです。困っていたら気づいてほしいです。そのために私自身、いつでも今、この場面で何が起ころ、誰がどんな気持ちでいるかと考えるようにしています。いじめを止めさせようとかかわった人たちは、悪いことは悪いと言える環境があるのだと思いました。頼れる判断ができる、想像力を持った大人が近くにいてくれるからだとも考えました。このように、周りの人すべてが想像力を働かせてくれる環境にあれば、悲劇は起こらずに済む、あっても最小限で済むのではないのでしょうか。

視点を変えて物事を考えるために「一段下がって考える」という言葉をよく耳にします。しかし私はその考え方は違うと思います。なぜなら同じ視点に立ったままではわからないからです。一直線上に並んでも見える景色は同じです。だから私は、「一段下がって」考えてみることを大切にしたいです。そうすれば、違う視点に立つことになり、相手が、物事がより明確に見えてくるのではないのでしょうか。

私は学校がとても好きです。楽しく安全で平和な学校生活を送れているのは、仲間がいるおかげです。同様に社会も一人では構成されていません。自分中心の社会はこの世に存在しません。社会には様々な個性をもった人がいます。考え方や価値観が人それぞれ違います。それを理解しなければなりません。だからこそ私は「一段下がって」想像力を働かせ、仲間と支え合って安心安全な生活を送りたいです。そうして、安心安全な社会を創っていききたいです。

◎「1人の100歩より、100人の1歩」実感

台風一過の、9月6日早朝に行われたPTA奉仕作業におきまして、多くの生徒の皆さん、保護者の方々、学校応援団ボランティアの方、環境整備へのご協力ありがとうございました。1年に1回、おかげさまで学校の生活環境が変わりました。学校愛等に感謝申し上げます。



【今月の言葉】 R7 誠樹祭イメージソング 「恥ずかしいか青春は♪」(作詞・作曲 長尾晴子 緑黄色社会)

ぶつけたところから 熟れていく果実のように 僕らは些細なことでへこたれたよな
かさぶたになれずに 息せき切ってがむしゃらに 輝く一等星をめがけて 手を伸ばしたよな

繊細されど**大胆**だ うるさいこれが**切り札**だ 泣き虫されど**熱血**だ うるさいこれが**持ち味**だ
未開拓 冒険時代 好奇心旺盛時代 何か綺麗かは分かる 見る目ならばある

恥ずかしいか**青春**は 馬鹿らしいか**真剣**は 僕ら**全力**でやってんだ 振りかざせ**存在**を 掻き乱せ**心臓**を あとどれくらい続いていこう 守り抜いた**青春**が 何よりも**贅沢**だ きっといつか焦がれ思い返す 名前のない**関係**を捨てきれない**感情**を 何気ない今日を忘れないでね (中略)

今しかできない**事**がある 今しかできない**恋**がある 今しかできないから 僕らに託された**時間**が惜しい 君の**笑顔**も君の**涙**も君のすべても 有限だから**最高**だ 恥ずかしいか**青春**は 馬鹿らしいか**真剣**は 僕ら**全力**でやってんだ